令和６年９月７日 開催

聴っくオフ・ミーティング報告書

テーマ　身近なみどりでできること
～グリーンインフラから始める水害対策～

区では、区政への区民参加の仕組みづくりを進めています。その取組の一つとして、身近な行政課題について、区長と区民が直接意見交換をする区政を話し合う会「聴っくオフ・ミーティング」を開催しています。

令和６年９月７日は、身近なみどりでできること～グリーンインフラから始める水害対策～をテーマに、一般公募と無作為抽出した 2000 名の区民の中から参加していただいた３９名の方と、話し合いました。

区長から

区内には、神田川をはじめとした３つの一級河川が流れており、その一つである善福寺川沿いには、大きな公園や緑地等もあり人々の憩いの場となっている一方で、台風や集中豪雨の際には、未だに浸水被害が発生しています。浸水被害を避けるには、下水道への雨水や生活排水の流入を軽減する取組が重要となっています。行政が区民の命や暮らしを守るため進めているインフラ整備も大切ですが、例えば、大雨の際には、洗濯やお風呂の水などの生活排水を下水道へ流す事を一時控えるなど、みんなでできる水害対策もあります。こうした情報を周知して活かしていくことが大切です。

本日のテーマの「グリーンインフラから始める水害対策」は、水害対策にみどりや自然の力を生かすだけでなく、区民参画による地域コミュニティづくりやまちづくり、子どもたちの環境教育など、様々な課題解決にもつながる取組でもあります。今日は皆さんと一緒にこのテーマについて、共に学びながら考えていきたいと思います。

担当課からの説明

今回のテーマは「身近なみどりでできること～グリーンインフラから始める水害対策～」としており、キーワードは「気づき」です。グリーンインフラの「グリーン」は、単にみどり・植物という意味ではなく、みどり・水・土・生物などの自然環境が持つ自律的回復力をはじめとする多様な機能を積極的に活かして、環境と共生した社会資本を整備する意味を持ちます。グリーンインフラを積極的に活用することで、防災・減災や地域振興、生物の生息空間の創出等、地域課題への対応が図られ、私たちの暮らしはより豊かに、そして SDGs のゴールである自然と共生した持続可能な社会へと近づきます。例えば大きな木があるとします。木の持つ機能には、CO２削減、防風・防音、生物の棲み処、木陰や人々の憩いの場の創出、落ち葉は土の栄養になるなど様々な機能があります。防災・減災のために木を植えることで、副次的効果として、環境が改善されたり、落ち葉の維持管理などで地域社会のコミュニティが形成されたりするのもグリーンインフラの機能です。

それでは、地域課題の一つである水害についてお話しします。昨年の６月には、台風２号の接近により、善福寺川が溢れて、川沿いの低地ではマンホールから水が噴き出し、道路冠水や家屋等への浸水被害が発生しました。このような水害はどのようなメカニズムで発生するかご存じですか。区内の下水道は、雨水と生活排水が一緒の管の中を流れ、普段は水再生センターで処理される合流式下水道という仕組で整備されています。大雨が降ると水再生センターで処理できない分の多くの汚水は、途中で河川に放流される仕組となっており、川の水位が増している際には、行き場を失った汚水が川沿いの低地などでマンホールなどから噴き出します。下水道の氾濫を抑制するためには、下水道に水を集めないようにするのが有効な手段になりますので、大雨の時には「お風呂などの生活排水を流さない」「屋根に降った雨水は直接、下水道へ流さずいったん地中に浸み込ませる」など、下水道の負担を減らす取組がカギとなります。そんなときに自然の力を活用できないか、例えば皆さんの家にある庭など、身近な自然を活用できないかを考えるのが今回のテーマ「グリーンインフラ」です。

今日は、身近なみどりをかしこく活用できるアイデアを話し合っていただきたいと思います。

グループトーク

◀◀◀第１回 10:00～12:30　　第２回 14:00～16:30 ▶▶▶

全体トークでは半円状の車座になり、参加者が一人ずつ自分の意見を発表した後、フリートークを行いました。以下は全体トークでの主な意見です。

●参加者　今回グリーンインフラを初めて学び、その重要性に気づくことができた。グリーンインフラをどう創出して実践的なモデルにしていくのかはすごく難しいが、何とか公共財産を使ってできないか。

●参加者　マンション住まいで、身近でできるグリーンインフラは限られると思っていたが、今回自分のマンションも雨水浸透桝が設置されていることを知り、間接的に少しは貢献できていると分かってよかった。

●参加者　グループトークでは区民農園がもっと増えれば、グリーンインフラにもなるし、協力したい区民が運営もすれば、お金もかけずにできるのではという意見が出た。区民が誰でも参加できるグリーンインフラの活動の場が企画されるとよい。

●参加者　自宅駐車場を全面コンクリートでなくタイヤの乗るところ以外は砂利にしていることと、外の水栓を下水管に流さず地面に流して土に浸透させていることで、実は我が家もグリーンインフラに貢献しているのだと今日気づいた。

●参加者　台風 10 号の大雨のニュースで水害の被災者を見て、事前に食料品の準備やハザードマップの確認などから始めていきたいと改めて感じた。

●参加者　自分の家で雨水を溜めて、少しでも役に立つ形で何かしたいので、プランター菜園を始めてみるつもり。

●参加者　結局、維持費やコストがかかるので、それをずっと続けていくのは、若い世代にとって経済的に負担ではないか。例えば補助金を出すなど、制度の話にも関わってくる。

全体トーク

●参加者　ハザードマップを見て、杉並区は、武蔵野扇状地の遊水地から流れる３本の川があり、区そのものが扇状地のグリーンインフラのジオパークに相当すると思った。川自体はグリーンの連続で、生物の移動空間でもあり、快適な生活空間などの様々な機能を持った動線である。区内のみどりや公園などを連続してつなげることで、防災上のネットワークにできる。

●参加者　雨水が川にどう流れていくのか分からなかったので、例えば 3D モデルでグリーンインフラの具体例を公共施設につくり、維持管理の体験や学びの機会があったらもっと身近に考えられる。

●区長　グリーンインフラの見える化や、モデルづくり、コミュニケーション、杉並区の特徴などについて、もう一言、言いたいという方がいたら、ぜひお話を聞きたいと思います。

●参加者　区では施設再編マネジメント計画があると聞いたが、老朽化で新しく施設を建て替えるときに、グリーンインフラのモデルになる施設や、体験できる施設が設置されるとよい。

●参加者　例えば、区役所前の広場で、プランターに寄せ植えをする体験会を開催し、栽培方法を農家や造園屋さんにアドバイスしてもらい、自分の家のプランターで試してみてはどうか。

●参加者　杉並区の面積の 70%は宅地だと聞いた。宅地は庭にできるわけで、まさにグリーンインフラの最初の出発点で、すごく可能性を秘めていると思う。点在する小さな宅地をネットワークでつなぐことにより大きな力を発揮する。

●参加者　結局インフラとはまちづくりで、グリーンインフラを進め強化していくのであれば、戸建てやマンション、商業施設なども、何平米以上の建物はグリーン化するというルールがあれば、さらにグリーンインフラを広めることにつながる。

●参加者　自然を愛する心を子どもたちに伝え、育んでいく工夫として、紙芝居を作りたい。そうしたことを通して皆さんとグリーンインフラでつながっていけたらよい。

●参加者　趣味で楽しく行っていた花や木、野菜を育てることが、実はグリーンインフラだった。雨の日にバケツを置いて、溜まった水を花にあげていたことも役に立っていたのかと嬉しくなった。

●参加者　プランターを設置するよりも、すでにあるコンクリートを剥がして花壇や畑にする助成制度があると効果的。

●参加者　グリーンインフラの効果について、区レベルの方策、個人レベルの対策、それぞれが、どの程度の効果があるのかを定量化できるとよい。

●参加者　治水対策は個人が簡単にできることや、大雨のときに生活排水を極力流さないだけでも、みんなでやればかなりの効果があるという気づきがあった。

●参加者　グリーンインフラ自体が知られていない。課題は何なのか、区はどんな取組をしているのかを、環境問題になじみのない高齢世代から若い世代まで、幅広くしっかりと情報発信していくことが必要。

●参加者　大雨のとき風呂や洗濯などの家庭から流す水を少なくしようとしていたが、それがよいことだと確認できてよかった。友達にも伝えていきたい。

●参加者　戦時中はジャガイモを庭に植えるなど、食料を自給していた話を聞くと、昔からグリーンインフラは自然に行われていたのだと思った。また、街角には防災と刻印された大きなコンクリートのボックスがあって、そこに雨水を貯めて再利用していたとのこと。こうした情報を特に若い人たちに伝え学んでもらいたい。

●参加者　大雨が降ると、スマホで雨雲レーダーや善福寺川のライブカメラを見て怯えるばかりだったが、今日、川が氾濫する理由は排水にもあると気づき、降雨時には風呂の水を流さず、雨が落ち着いてから排水するなど、誰にでもできることがあることに驚いた。みんながやれば、小さなことも防災につながるので知人に広めていきたい。また、「なみすけ」は杉並が誇る最高のキャラクターなので、ぜひ広報や周知に使ってほしい。

●参加者　自分でできる水害対策が何かと考えたときに、例えばプランターで植物を育てるなど、大雨で降った水をそのまま下水道に流すのではなく、ワンクッションおいてから排水することが大事だと思った。

●参加者　地下調節池をつくることなどは大都市でしかできないが、小さな力と地域の力を積み重ねて大きな力をつくることは、日本全国どこでもできることなので、杉並でロールモデルをつくり発信していことができれば、区民としても誇らしい。

●参加者　個人宅で緑地をつくることが難しければ、例えば、元は暗渠だった細い道などにグリーンインフラのベルトをつくり、木陰を歩けるようになってグリーンインフラを感じられることも一つの手段。

●区長　このグリーンインフラという取組は、小さな力をまとめていくと大きな力になり、情報を知り行動することによって、水による被害を防ぐことにつながると思います。もちろん行政はいろいろと情報発信していきますが、今の時代の情報の共有や発信の仕方は、やはり双方向でマルチな情報が行ったり来たりすることが必要です。また、情報だけでなく、体験や学習が組み合わされば、さらに大きな力になると思うので、子どもたちや、みんなが参加して力を合わせていくコミュニティができていけばと思います。

区長の感想

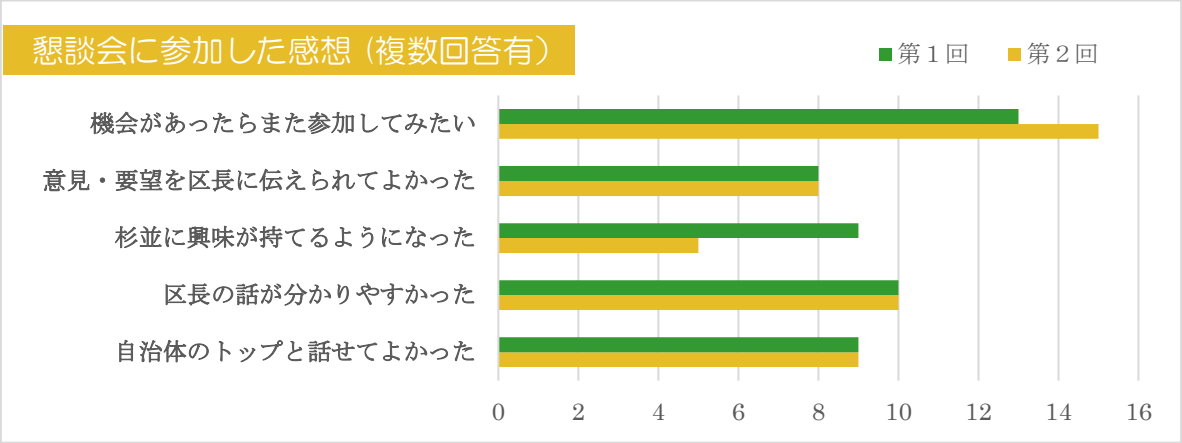
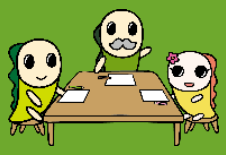
いつも全体トークで皆さんの気づきをお聞きしていますが、毎回とても参考になります。今回は様々な視点からの意見が実はつながっていると感じました。まずグリーンインフラという言葉が魅力的なのだと思いました。初めて聞いたテーマでも、皆さんの生活に少しでも関係するところがあって、関心をもって本日来てくださったのだと思いました。グリーンインフラの取組は水害対策のみならず、環境や生物多様性、地域づくりに貢献するなど、他の様々な効果を生み出します。杉並区はこれからグリーンインフラの取組をさらに広げていきますが、最も大切なポイントは、やはり区民の皆さまの小さな行動と知識の共有だと思っています。今後もこの取組にご注目いただき、ぜひ、ご参加ください。

グリーンインフラを所管する担当課から

グリーンインフラ自体が皆さんにあまり知られていない中で、「自宅の駐車場の作りがグリーンインフラだと気づかされた」、「楽しんでやっていた家庭菜園が水害に役立っていた」など皆さんいろいろ気づいていただけたと思います。

他にも「育てるグリーンインフラ」、「楽しんで作る」など今後グリーンインフラを推進するキーワードもいただきました。一方「マンションでできる工夫はあるか」など課題もあることがわかりました。本日水害対策のご意見やアイデアをいただきましたので、今後の区政にも活用していくことを検討したいと考えています。

これからも「グリーンインフラ」を知ってもらうためのイベントを続けていきますので、ぜひお時間があればご参加ください。区もしっかりと皆さんの意見を聞きながら、進めて参りますので引き続きどうぞよろしくお願いします。



令和６年９月７日　聴っくオフ・ミーティング報告書
＜開催日＞ 令和６年９月７日（土）
＜参加者＞ 区民３９名、区長、土木計画課長ほか
令和６年１０月　編集・発行　杉並区総務部区政相談課
〒166 - 8570 杉並区阿佐谷南一丁目 15 番１号　電話 03-3312-2111